

# 2.12講演会

NO BASE  
NO OSPREY

## オスプレイ墜落事故抗議 MV22配備の撤回を

2016年12月13日、沖縄の皆さんが繰り返し警告し、懸念してきた事態が名護市東岸沖で発生しました。普天間飛行場所属のオスプレイ1機が海上に墜落し、大破した。米海兵隊は不時着といいます。星条旗新聞は「Crash(墜落)」と報道します。さらに、同日夜別のオスプレイが普天間飛行場で胴体着陸していました。これも後にわかり、2つの深刻な事態が同時に起きました。

この間メディアは、MV22オスプレイの事故率が1.93から2.69へ上昇したと報じましたが、米海兵隊は2015年12月段階で、事故率は3.69に達していることを認めています(琉球新報、2016.1.6)。2016年10月26日にも、着陸失敗のクラスAの事故が発生し、事故率はさらに上昇していると考えるべきでしょう。

米軍は今回の事故についても、機体そのものに問題ないと主張します。しかし、オスプレイの元主任分析官リボロ氏は、墜落事故が空中給油をきっかけに起きたことは「オスプレイの新たな構造的欠陥である」と指摘(琉球新報、2016.12.15)。

学習会では操縦の難しさ、下降気流と後方乱気流、オートローテーション機能の欠如等々、オスプレイの構造的な欠陥や、これまでの事故の実態を報告。さらに横田配備計画と、訓練飛行が予定されている長野県内自治体の反対の声も紹介します。日米安全保障条約と地位協定を国際航空法とオスプレイ飛行等法制面に関わる諸問題を論じます。機体の欠陥、オスプレイに反対する自治体、各地の運動、飛行に関する法律的な側面等、全国の仲間とオスプレイの問題点を共有し、MV22オスプレイ即時配備撤回の声を、沖縄県民の声としてさらに大きく上げていきましょう。



# 2/12日

開場13:00

開演13:30

報告者●頼和太郎(「リムピース」編集長)

●福田 護(第四次厚木爆音訴訟弁護団)

●新倉裕史(ヨコスカ平和船団)

会 場●沖縄大学3号館101 会費●500円

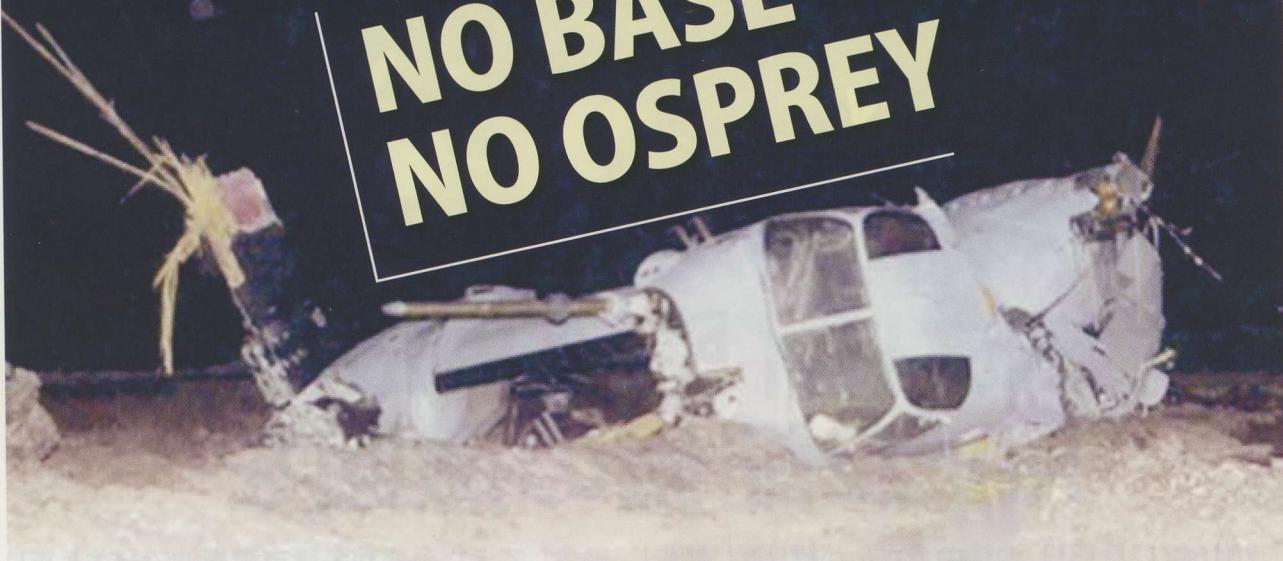
主 催●沖縄の「基地と行政」を考える大学人・研究者の会

後 援●沖縄タイムス社、琉球新報社

問合せ先●照屋寛之(沖縄国際大学 照屋寛之研究室)

090-4471-5196

# NO BASE NO OSPREY



沖縄タイムス (2016.12.16)

不時着と言いながら、なぜ機体があそこまで壊れるのか。相当なスピードで海面、磯にたたきつけられたと考えられる。これを墜落と言わずに何と言うのか、というのが率直な感想だ。

エンジンやプロペラに異常が起きた際の最後の手段、オートローテーション（自動回転）が効かないことが姿勢を保ちながらも水面にたたきつけられた原因



## 頼和太郎さん（リムピース編集長）

機体が重すぎること、特に今回は搭乗員が5人で、満杯ではなかつたのにこんな落ち方をしたところにオスプレイの抱える物理的、力学的な弱点が改めて浮き彫りになった。

空中給油は、給油する機体と給油される機体がホースやブームの長さまで接近する。複雑な気流の影響や、ちょっとの判断ミスで空中衝突につながる。ましてや

だろう。

空中給油の訓練中は、ある程度の空域を確保する必要がある。軍事空域に囲まれた沖縄がやりやすく、KC130空中給油機が岩国

に移転したとはい、沖縄での訓練は続くだろう。今回のようない事故のとぼつちりを陸上の施設や住民が受けける二次的な被害が発生しやすい、と言える。（談）

## 夜間の給油危険性大

### 報告者紹介

●頼和太郎（リムピース編集長）は、全国の基地を監視し、「追跡!在日米軍」のウェブサイトを運営しています。オスプレイに関しての書籍もあり、今回の事故の問題点、オスプレイの構造的な欠陥について報告します。

●福田護（第四次厚木爆音訴訟弁護団）は、空母艦載機の爆音被害を訴える訴訟を担当する弁護士。オスプレイの施設・区域外訓練飛行の違法性について、ビデオで報告します。

●新倉裕史（ヨコスカ平和船団・東日本オスプレイ連絡会）は、防衛省・外務省とのオスプレイ交渉から見えてくる日本政府の問題点と、横田配備のオスプレイ訓練地である長野、群馬両県の自治体と市民の取り組みの現状を報告します。